

美容皮膚科とは何か

きれいな肌になりたい
女性が増え、注目度が増す

最近、女性雑誌のなかで「美容皮膚科」が取り上げられることが増えている。美容皮膚科とは何か、なぜ注目を集めているのか。数多くのメディア、患者から支持を集める、あおいクリニック銀座 中野あおい院長に尋ねた。

アトピーも同様ですが、そうしたお悩みに応えるのが美容皮膚科です」

あおいクリニック銀座の開業は2003年。それ以降、患者数は年々増加傾向だという。半数は都内から、残り北海道から沖縄までの国内や、海外在住の日本人、外国人など。年齢は10代から上の人すべて。子どもがニキビに悩む姿を見るに見かねて来院する親子や、80代の習い事の先生が、周囲に不快感を与えないようにと顔や手のシワを改善しに来るケースなどもあるが、中心は30代から40代。「もつときれいな肌になりたい」という悩みや希望から来院する女性が多い。

美容外科
手術によって顔などの各部位を整形する

美容医療

美容皮膚科
レーザーや医薬品の注入などで皮膚を改善する

美容内科
サプリメントや点滴などで体を内側から若返らせる

再生医療
自分の肌細胞、血液を用いた治療。これからの美容医療

一人前の医師になつてから この世界を目指したい

がかかることがあります。美容皮膚科は施術後すぐにメイクしたり、復帰できるようなものが多い。それらの理由から、美容皮膚科のほうが日本では注目度が上がっているのではないのでしょうか」

ところで中野院長は、なぜこの道を選んだのだろうか。

「当初は内科医として心臓血管を専門にしていました。血管を研究するうちに『老化』に興味をもち始め、しだいに人の内側の老化から外側の老化、つまり見た目のアンチエイジングの方向に興味が移っていき、美容医療を専門とするようになりました。ただし、人は皮膚も内臓も結局は同じ体の一部。トータルに見ていきたいので、今は皮膚科も内科も診ています」

美容皮膚科は、今後どのように変わっていくのだろうか。

「医療は日進月歩ですが、美容皮膚科も同じです。海外の学会に出ると、たった半年間で大きな進化を感じたりします。今後はレーザーなどの機器を使った治療よりも、薬品を用いた、よ



あおいクリニック銀座 院長
美容皮膚科・美容内科医
中野あおい氏

り安全で効果の高い治療法が増えていくように思います。この分野の再生医療もますます進んでいくでしょう」

将来、美容皮膚科の医師を目指したいという若者に対しては、どんなアドバイスがあるだろうか。

「まずはどこかの科で何年間か頑張つて、一人前の医師になることです。医師としての苦労や厳しさを経験しなければ、美容皮膚科医としてすばらしい医師になることもできないでしょう。私も内科医をやり通した10数年があるから、現在があると思っっています。患者さんはみな肌がきれいになると、すごく明るくなります。生き方もポジティブになります。人をきれいにする仕事とは、人を幸せにする仕事であり、世の中を明るくする仕事だと思えます。そんな仕事に興味のある方には、ぜひ目指していただきたいですね」